

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 このふるさとの女の前にてだに、つつみはべるものを、さる所(＝宮中)にて才さかし出ではべらむよ。(紫式部日記)

(訳) (私は)自分の「」の侍女の前でさえも、(漢学の素養を)隠していますのに、(われ知らず)宮中で漢学の素養をひけらかしているのでしょうかよ(そんなばかなことはありません)。

①山里 ②旧領 ③故郷 ④実家 1 「」

2 うへ、殿上に出でさせ給ひて、御あそびありけり。(紫式部日記)

(訳) 「」が、殿上の間にお出ましになって、管絃のお遊びがあった。

①御子 ②天皇 ③身分の高い人 ④主人 2 「」

3 よろづのどがあらじと思はば、何事にもまことありて、人を分かず、うやうやしく、言葉少なからんにはしかじ。(徒然草)

(訳) すべての「」をなくしたいと思うのならば、何事にも誠意があつて、人を分け隔てず、礼儀正しく、口数が少ないようなのにまさるものはない。

①争い ②欠点 ③敵 ④原因 3 「」

4 半蔀は下ろしてけり。ひまひまより見ゆる灯の光、螢よりけにほのかにあはれなり。(源氏物語)

(訳) 半蔀は下ろしてしまっていた。「」から(もれて)見える灯火の光は、螢(の光)よりいっそうかすかでしみじみとした趣がある。

①暗闇 ②すき間すき間 ③遠い所 ④ふだん 4 「」

5 内裏に御遊び始まるを、ただいま参らせ給へ。(堤中納言物語)

(訳) 「」で詩歌管絃のお遊びが始まるので、すぐ参内ください。

①屋内 ②境内 ③宮中 ④離宮 5 「」

6 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。(枕草子)

(訳) (お供の者は)たくさんいるような従者の中でも、「」を見て連れて回りたいたいものだ。

①本心 ②容貌 ③性格 ④心遣い 6 「」

7 限りなく喜びかしこまり申す。(源氏物語)

(訳) (明石の入道は)この上もなく喜び(源氏に)「」を申し上げる。

①お祝い ②お返事 ③お話し ④お礼 7 「」

8 かつあらはるるをも顧みず、口にまかせて言ひ散らすは、やがてうきたることときこゆ。(徒然草)

(訳) 一方でばれることも顧みず、口からでまかせに好き放題言うのは、すぐに「」こととわかる。

①根拠のない ②具合が悪い ③物足りない ④だらしない 8 「」

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。(大和物語)

(訳) (季繩の少将の家は)門を閉じていた。(季繩は)死んだのだった。「」(して来意)

を告げたけれども、なんの意味もない。 9 「」

10 昔、男ありけり。歌は詠まざりけれど、世の中を思ひ知りたりけり。(伊勢物語)

(訳) 昔、男がいた。歌は詠まなかったが、「」をわかまえていた。

10 「」

11 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はめ。(徒然草)

(訳) (恋に破れて)長い夜をひとりで明かし、はるか「」を想像し、茅の茂る荒れ果てた家で昔を懐かしむことこそ、恋の情趣を解すると言えよう。 11 「」

12 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。(竹取物語)

(訳) (かぐや姫の)罪の「」が償われたので、こうして(月から)迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P 2 3 6 5 P 2 4 5

1 「④」

2 「②」

3 「②」

4 「②」

5 「③」

6 「③」

7 「④」

8 「①」

9 「訪問」

10 「男女の仲」

11 「遠く離れた所」

12 「すべて」